

安定出荷に向け、面積拡大と技術の向上を図る

野菜販売実績検討会

JAは11月9日、野菜販売実績検討会を開きました。園芸の各部会代表、市場、関係機関など45人が出席。今年の生産・販売状況を振り返り、来年に向けて意見交換を行いました。市場関係者からは出荷数量の拡大、安定供給などの要望が挙げられました。JAトマト部会的小野寺勝義部会長は「天候の影響に左右されず安定出荷ができるようにしていきたい」と意欲を示しました。



来年の生産・販売に向け活発な意見交換

畜産振興に向け意見交換

畜産事業懇談会

JAは11月15日、畜産事業懇談会を開きました。酪農、和牛、肥育牛の各生産部会の代表者や関係機関など約70人が出席。畜産にかかる情勢を確認し、今後の畜産振興方策について意見交換をしました。生産者からは「将来を見据えた生乳出荷経費節減」「和牛の増頭対策」「いわて南牛の地元での販売強化」などの意見や要望が挙げられました。懇談会に先立ち行われた畜霊祭では、牛魂碑を前に家畜への感謝と畜産振興を祈念しました。



畜産業発展に貢献した家畜に感謝した畜霊祭



活発な意見交換が行われた懇談会

農林業・農村社会の発展に貢献した6組を表彰

一関地方農林業振興大会

一関地方農林業振興協議会は11月14日、一関地方農林業振興大会を開きました。農林業従事者や関係者約330人が出席。一関地方の農林業と農村社会の発展に寄与している3部門6組が表彰されたほか、受賞者による事例発表が行われ、参加者は地域農林業の振興発展に決意を新たにしました。

受賞者は次の通り。(敬称略)▽担い手部門賞=及川恵吾(花泉町)、石川英希(藤沢町)、農事組合法人プロファーマ(中里)▽いきいきむらづくり部門賞=北の沢集落(弥栄)、大平集落(千厩町)▽明日を拓く担い手部門賞=菅原慎也(厳美町)



受賞者6組による事例発表

生産資材価格動向について

生産資材の原料の多くは海外からの輸入に頼っていることから、外国為替・原油価格・海上運賃などが大きく影響してきます。以上のことを踏まえ、生産資材の価格動向をお知らせいたします。

1 肥料 (H 29.11 月～H 30.5 月の価格)

平成30年用の春肥価格は窒素質が小幅下げ、その他はほぼ据え置きとなりました。前期の秋肥価格が値上がりしていましたので、29年用春肥との比較では尿素で約9%、燐酸で約2%、加里で約10%、高度化成で約4%の値上がりとなる状況です。

2 飼料 (配合飼料、H 29.10 月～H 29.12 月価格)

トウモロコシ・大豆粕などの値下がりにより約400円/トンの値下げ。ただし、大麦の値上げ影響から、肉牛用は約300～500円の値上げになっています。粗飼料は、米国产の全種類がほぼ平年並み、カナダ産チモシーは豊作、豪州産オーツは収穫中ですが、若干の不作予想となってい

ます。品質はいずれも上級率が高く米国内需要も盛んで、中国・韓国などからの引合いが強いことから強含みの状況にあります。

3 農薬 (毎年1月に改定)

海外生産拠点の環境規制強化、原料等の値上がりによるコスト増加で各社から値上げを要請されました。約1400品目のうち、40品目が値上げ、6品目が値下げとなりました。値上げ品目の大半は銅剤(Zボルドー・カスミンボルドー・ヨネボン乳剤など)となっています。

4 保温包装資材

被覆資材は、原油価格動向が影響します。11/24時点で1バレル40～60ドルと安定した相場となっています。海外情勢の変動でも影響するので予測は困難ですが、末端価格の反映まで時間がかかるので現況での推移と捉えます。

段ボール資材は、原料の古紙価格高騰で今秋より各社で値上げしています。来春の末端価格は約10%の値上がりと予想されます。

生産資材ひろば